下関市まち・ひと・しごと創生推進会議
第15回
議事要旨

日　　時　令和7年8月２１日（木）１０時００分～１１時３０分
場　　所　下関市役所本庁舎５階大会議室
出 席 者　中野委員、津田委員、宇原委員、堤委員、藤田委員、植木委員、
　　杉浦委員、能野委員、伊藤委員、中村委員、堂脇委員、柿内委員、
　　平岡委員、津田オブザーバー

議題
１ 開 会
２ 総合政策部長挨拶
３ 委員自己紹介
４ 下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況
５ 地方創生関係交付金事業 進捗状況
６ 下関市過疎地域持続的発展計画 進捗状況
７ 閉 会

《配布資料》

1.	次　第	
2.	座 席 表	
3.	委員名簿	
4.	要　綱	
5.	【資料１-１】	第２期下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況（総括表）
	【資料１-２】	第３期下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略の目標指標一覧
6.	【資料２-１】	交付金事業①「市民 QoL 向上プロジェクト」
	【資料２-２】	交付金事業②「菊川おもてなしプロジェクト」
	【資料２-３】	交付金事業③「豊浦地域［川棚温泉エリア］再生事業」
	【資料２-４】	交付金事業④「多様なライフスタイルが実現できる「まちの拠点」創出事業」
	【資料２-５】	交付金事業⑤「ホテル誘致を起爆剤とした官民協働でのエリア再生」
	【資料２-６】	交付金事業⑥「公民共創による持続可能な下関市移住モデル確立プロジェクト」
	【資料２-７】	交付金事業⑦「半導体・蓄電池産業集積強化事業」
	【資料２-８】	交付金事業⑧「スタートアップによる地域産業の活性及びデジタル化推進事業」
	【資料２-９】	交付金事業⑨「下関の人事部を中核とした事業承継・人材課題解決支援モデル構築プロジェクト」
7.	【資料３】	下関市過疎地域持続的発展計画の進捗状況

１ 開 会

２ 総合政策部長挨拶

３ 委員自己紹介

４ 下関市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況

５ 地方創生関係交付金事業 進捗状況

６ 下関市過疎地域持続的発展計画 進捗状況

議題４・５・６について、資料１、資料２、資料３を用いて、事務局より説明。

【質疑・応答】

・２－２～２－４

（委員）

菊川地区でグランピング事業が行われているようだが、市内各地でもグランピングが展開されているかと思う。価格を見ると割と値段が高いが、実際どれぐらい稼働しているのか。

菊川の温水プールについて、以前温水が出ないと聞いたが、現状どうなっているのか。

川棚地区について、様々なプロジェクトを実施されていると思うが、車の動線と歩行者の動線を分けられないのかと感じている。例えば湯本温泉は車と歩行者の動線がはっきりしており、川棚地区も同様の方法等を検討したらどうか。

（事務局）

菊川の歌野地区では、民間事業者がグランピングの整備をしている状況である。
グランピングだけでは、誘客等難しいというところがあるため、例えばサウナ施設を整備し、歌野川を利用して涼をとるといった地区全体が盛り上げるような形を目指しており、これが菊川地区に関心を寄せていただいてるような状況である。

（事務局）

市内全域のグランピングの稼働状況については把握できていない。前田の海沿いにも民間事業者経営の施設がある。アウトドアという形のものはコロナ禍から、生活スタイルが変わっている。マイクロツーリズム等の流れによって体験型などが観光コンテンツのキーワードとなっている。先ほど説明があった菊川自然活用村は元々キャンプ場があり、上手く生かされていなかった。そこをグランピングで活用できないかという話があり、自然活用村という施設を民間の飲食店が運営していて、施設の一部分を合宿で使用できないという話もある。

菊川地区は、運動公園やベルちゃん体育館、温水プールといった体育施設が集中していて中心市街地にはない特徴がある。

このため、スポーツ合宿や大学のゼミ活動、職員研修等、何か目的を持って活動できる方向けに持っていけないかということで、自然活用村を合宿施設と結びつけて人を滞留させ、グランピングや道の駅に人を呼び込めないかというところで事業を実施している。

（事務局）

菊川の温水プールについては、今年の１月に送水管の一部を撤去し、温泉は止まっているものの、温水プール自体は水道水を加温して今まで通り利用されている。

（事務局）

川棚温泉地区では旅館等が少なくなっていく状況の中で、昨年度は人が来る仕掛けや楽しむ方法を考えて足湯を整備した。バックパッカーが歩き、市外から来た人が足湯で談笑する様子が見られ、賑わいを感じられるようになっている。

交通の関係で申し上げると、道路自体は細く、バスも入り込めない場所もあるため、検討課題はまだあると認識しており、今回のご意見を参考にさせていただく。

（委員）

資料６ページについて、スポーツ合宿というのは対象年齢層やスポーツの種類、宿泊料金はどのぐらいをイメージされているか伺いたい。質問の背景として、合宿だと宿泊料金が高額だと選択しずらいのではと考えている。また、大部屋だと小学生は喜ぶが、親である大人は抵抗感があるのではないか。

（事務局）

対象年齢層について縛りはないが、小学生や中学生が候補になっている。宿泊施設については高額な宿泊施設はないため、過去の実績でいうと公民館を使用するなど、できるだけ経費を抑える形を考えている。

スポーツの種類においても特に縛りはないが、運動公園や体育館を活用した、サッカーや野球、バレーボール等を想定している。

（委員）

小学生や中学生を対象とすると親が必ず来るので、結局は大人が宿泊施設を選ぶと思う。子どもたちは大広間でいいが、親は別のところに泊まるという傾向が強いので、その部分についても今後検討いただきたい。

（委員）

交付金事業について、菊川町、豊浦町、豊北町は各プロジェクトがあるが、豊田町がない理由を伺いたい。

（事務局）

菊川町、豊浦町、豊北町の３町は令和５年度から取り組みを始めたが、豊田町については先駆けて取り組んでおり、道の駅を中心としたにぎわいやホタル船の整備をした。

今後も推進交付金等を活用するため、新しい計画を検討している状況である。

・資料２－５～２－６

（委員）

資料２－５の海峡沿いの社会実験について、令和７年度以降はもっと具体的にできないのか。また、フライ＆クルーズをパッケージ化し、東京からの誘客を図るなど、旅行代理店との連携はできないか。子ども連れであれば、船に乗ること自体がアトラクションにもなる。

（事務局）

これまで社会実験として様々なイベントを実施しており、それが実業として展開できるかが大きな課題として認識している。

目指しているのは、海峡エリアにおいて複数の民間事業者が自社の利益だけで活動するのではなく、共同でエリア全体を盛り上げていくこと、民間事業者が難しいと考えている部分に、行政が支援や規制緩和でサポートすることで新たな事業展開を図ることが最終目標とし

ている。
　これまで関わっている民間のプレイヤーが成長していて、民間が自主的にこの社会実験を取り組もうとする団体ができている。
　また、海峡エリアで働いて事業者が協議会を作って、さらなる大きな動きとして盛り上げようとしている。今までは行政主導が大きくあったと思うが、民間が動くところにお互い手を取り合って事業を育てていきたいと考えている。
　フライ＆クルーズにおいても今後どのような展開の可能性があるかということを協議を開始したところである。

（委員）

　お試し暮らしについて、物件は旧４町にもあるのか。

（事務局）

　お試し暮らしについては、まちなか暮らしと田舎暮らしという２つのパターンに分けて用意している。まちなか暮らしでは、昨年まではウズハウスとブリッジという２施設があった。

　田舎暮らしについては海側と山側の暮らしを経験していただくということで海側は豊北町のペンシオーネ島戸、山側は豊田町の豊田農業公園みのりの丘がある。
　また、昨年から民間の未利用の不動産を活用するプレイヤーも育てていて、未利用の不動産をゲストハウスのように使うことができないかという掘り起こしを始めたところである。

・資料２－７～２－９

（委員）

　資料２－７について、ターゲットとしているエリアはどこか。支援事業者は募集して決まったのか。今年度は昨年度と違う事業者が支援対象なのか。
　資料２－８について、地域課題とはどういうものをイメージしているのか。

（事務局）

　市内の中小企業の優れた技術を活かして、半導体製造装置等の部品の受注率が上げることを目的とした事業を考えている。支援企業については、昨年度は公募をかけて、４者の支援を行い、今年度新たに１者追加し、今年度は５者を引き続き支援することとしている。
　販路開拓の対象エリアについては主に九州地区、中国地区を想定している。
　スタートアップ事業について、地域課題の分野については現時点では絞っていない。スタートアップ企業が市内で取り組んでいける課題を幅広にとらえて事業展開をしていきたい。

（委員）

　資料２－８のＫＰＩの３番と４番について、下関市はどのように関わっていくのか教えてほしい。

（事務局）

　一つは市外のスタートアップ企業が、下関でも抱える地域課題の解決に繋がるような、実証事業を行ってもらえるよう支援することである。
　もう一つは市内中小企業の成長に繋げることを想定しており、市外のスタートアップと事業連携等によって新たな事業の創出も考えている。

（委員）

　地域課題がまだ選定できていないということだが、どのように関与されるのか。

（事務局）

　事業を進める中で、委託事業者のネットワーク等を通じて、今後地域課題を探し出していくこととしている。

（事務局）

地域課題は行政が抱える課題にもなりうる。マンパワーの不足で庁内の業務が滞っている部分をＤＸ化などで解消していこうと考えており、これに対するノウハウを持つスタートアップに参入してもらい、地域課題の解決につなげる。

また、今年７月に日本最大のスタートアップカンファレンスに参加し、様々なスタートアップに出会い、相談もできた。実際に提案をいただき、提案内容を庁内の関係部署に共有しており、連携の可能性を探っている状況である。

・資料３

（委員）

感想になるが、豊田町に住んでいて、子育て面ではやはり住みづらい環境であると感じている。理由は交通が不便であるということ。子どもが高校に進学した段階で、豊田町から出ていく家庭が結構多いのではないかと感じている。交通が不便であるということが人口減少の一因ではないかと感じている。

（事務局）

人口の分析では自然減と社会減の２種類があり、豊田地区で話が出たが、全地区において自然減の状況である。社会減の方も下関全体で言えば、今までは１，０００人前後の転出超過であった。

豊田地区の特徴としては、人が減っていく理由の傾向としては、市内間移動である。市外に出るのではなく、市内のどこかに出ている状況。

今後のまちづくりの方向性で注目すべきは、市内間移動と考えている。安岡と勝山と王司、そして菊川は市内間移動が増えている。豊田の場合は、市外に出るというよりも、便利で住みやすい地区に移動している傾向が見られているところであるため、今後のまちづくりの一つのデータとして、バランスのいいまちにするためには必要なデータと考えている。

・その他

（委員）

先ほどの話にもあったが、バスの運行状況がかなり気になっている。理由としては、そのバスの運転手確保ができないというところにあるだろうと思い、これについては手を打っていかないといけないのではないか。

（事務局）

都市整備部の方でバスに限らずタクシーの運転手確保の対策も着実に進めているところもあるため、今回の意見は伝えさせていただく。

以上